

## 萩にあしあと残そうよ

「長い一日が続く日々…」

令和3年(2021)  
6月15日発行  
—第27号—  
発行：大塚好一



カラフルなガク  
アジサイ (近所)

### 〔日々暮らし〕

六月一四日、昼のニュースで関東地方が梅雨入りしたと聞きました。一か月早かった萩でも、これからが梅雨本番となることでしょう。

暮らしの状況はこれといって変化なしです。やはり緊急事態宣言や、まん延防止措置の対象地域が縮小していくことを願うばかりです。

嬉しいことといえば、塩原から届いたカブ。私のことを思い出して、育てた作物を送ってくれることに感謝です。日頃お世話になっている人にも配らせていただきました。早朝のランニングも汗だくですが、やはり走った日の方が気分は良いですね。

### 〔自由気ままな歌日記〕

葉っぱのフレディの  
朗読を聴くラジオに  
イソヒヨドリの声が重なる

しがらみも

責任も無い萩暮らし  
心寂しく毎日を終える

(六月十日)

故郷の土と水との味がして  
塩気要らずのカブを頬ばる

カブ便り届けば畑を守る人の  
作業の様が目に浮かぶもの

(六月一四日)

コンビニで

ふと手に入れた公募誌を  
めくり筆とる休業の朝

おとなりに

カブを届けた翌朝に  
手塩に掛けし胡瓜いただく

(六月一五日)

### 〔あしあとノート〕

#### ◆金子みすゞ記念館へ◆

長門市仙崎にある金子みすゞ記念館で「三大童謡詩人とみすゞ展」が開催されていたので、久しぶりに訪れました。三大童謡詩人とは、北原白秋・西條八十・野口雨情のこと。みすゞはそれぞれの詩人から影響を受けながら、独自の詩の世界を生み出していたと紹介されていました。

ところで、左の写真は一二万枚の顔写真で制作されたモザイク画の縮尺タペストリーです。実際の大きさは縦三二m、横四二mでギネスに登録されました。平成二十一年(二〇〇九)の作ですが、前年に記念館を初めて訪ねた時、顔写真を撮ってもらい、この企画に参加した記憶がよみがえりました。



モザイクアート。この中に私もいるはずです。

#### ◆釣り船に大漁旗なびく◆

恵美須神社の春の祭礼日に合わせ、地元の釣り船に大漁旗が掲げられました。今年も簡素に執り行われたようですが、このように港が華やかになるのは良いですね。



後方に恵美須神社

#### ◆伊藤博文旧宅の保存修理◆

建物の老朽化により保存修理工事が進められている伊藤博文旧宅。柱・梁・桁などの主要部分にも手が入れられています。三か年の工事の最終年となり、屋根の覆いが外され、真新しい茅葺屋根が姿を現しました。工事は年末までの予定となっています。



修理の完了が待ち遠しい。

#### ◆萩焼作陶体験の産物◆



長門峡ワンカップと大きき比べ。酒の器を作った訳ではありませんが。

四月に陶房大桂庵樋口窯で作陶体験をしたものが、このほど焼き上がりしました。今後の展開に向けたモニターのような感じでお手伝いしたのですが、結果として自作の陶器ができて嬉しいのです。右はろくろで、中央はひも作りによるものです。

#### ◆輝きながらの碑を発見◆

道の駅センザキツチンの一角に、徳永英明の代表曲「輝きながら」の詩碑がありました。作詞の天津あきら氏の出身地が長門市仙崎ということ建てられたそうです。心の色(中村雅俊)やFor You:(高橋真梨子)なども大津氏の作詞です。徳永さんは塩原の箱の森プレイパークでコンサートをし、特別な歌手の一人なので嬉しくなりました。

## 〔萩に関する自由研究〕

『小さな笠山の大きな魅力』

### ◆笠山のプロフィール



菊ヶ浜から見た笠山（右）  
平たく美しい形をしています。

萩市街地の北の方向に、日本海に突き出すように見える笠山は、標高一二mの本当に小さな、日本でも最小クラスの火山です。

まず、笠山がどのような火山活動によって誕生したかを紹介していきます。約一万一千年前、この一帯は陸地でした。そこに噴火により大量の溶岩が広範囲に流れ出し、安山岩の溶岩台地ができ、その上にさらに溶岩が流れては固まることを繰り返し土台ができてきました。

約八千八百年前になると、溶岩流を噴出させる噴火から

ストロンボリ式噴火に変化します。これはマグマのしぶきが噴き上がって降り積もっていくもので、これにより丘（スコリア丘）ができました。最後に、その上にさらに小さなスコリア丘ができ、噴火活動を終わりました。

簡単に説明しなすと、平たく広い溶岩台地ができ、その上に二段重ねのスコリア丘ができたことにより、離れたところから見ると中央部が盛り上がり、市女笠（いちめがさ）のような形となったというわけです。

### ◆笠山の溶岩を見てみよう

フィールドに出てみると、異なる形状の溶岩を手軽に観察することができず。

まずは溶岩台地の方を見てみましょう。虎ヶ崎周辺の海岸に立つと、黒いごつごつした岩に覆われています。溶岩の外側と内側で流れる速さが異なることで、縄状のしわができていたり、溶岩が表面を流れる際に、その縁の部分が冷えて固まって壁状の溶岩堤防ができていたり、溶岩の様々な表情を見ることができず。



黒々とした海岸沿いの溶岩  
に波が打ち寄せています。

一方、山頂部の火口周辺の地面は赤っぽい石に覆われています。スコリアと呼ばれるこの石は、マグマのしぶきからガスが抜けた軽石で、酸化により赤くなっています。持ち帰ることはできませんが、手のひらにのせて写真を撮ってみました。



火口周辺の溶岩は軽石状。

### ◆笠山のきょうだいたち

こちらは展望台から沖に浮かぶ萩六島を撮影したものです。向かって左奥から相島・羽島・尾島・肥島・櫃島・大

島といえます。平べったい島々だと思ふことでしょう。この独特な景色も萩の魅力のひとつといえます。

これらの島々は、実は二一万年前から六万年前にかけて次々に誕生した火山です。笠山と同様に安山岩による溶岩台地ですが、ふつうは粘り気が強く傾斜が急になるのに、平たい台地を作っているのは珍しく、日本はもとより世界でもほとんど類を見ないそうです。ご覧ください、本当に平たんな島々ですよ。



日本海に浮かぶ萩六島。相島と大島は有人島。これ以上ワイドに写せず残念。

萩六島は笠山のきょうだいということで阿武火山群の仲間となっていますが、驚くのかれ、阿武火山群は約五〇もの火山の集まりなのです。こ

れらは一ヶ所で一度だけ噴火するというのが特徴の火山群で、萩市周辺の日本海と内陸部に点在しています。

\* \*

約八千八百年前に火山活動が終息した後、約七千から五千五百年前にかけて縄文海進（氷河期が終わって海面がぐっと上昇したこと）によって、笠山はいったん島となります。その後、砂州が形成されて陸地とつながり現在の姿となりました。

笠山の入り口にある明神池は、陸とつながる時に海が取り残された部分で、海水が入り込んで海水魚が泳いでいます。また、地中の溶岩のすき間にはたまった冷気が流れ出す風穴は、初夏から夏の涼スポットとしておすすめです。

はじめに記述のとおり、笠山は標高一二mの小さな火山ですが、そのマグマの活動の歴史を知ると、大きな魅力を持つ場所であることがお分かりいただけるでしょう。

※令和元年（二〇一九）六月に作成しましたが、未発表だったので掲載することにしました。